

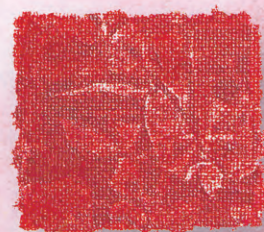
道守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.37 秋号



巻頭インタビュー

「Win-Win」の関係が大切
朝長 則男(佐世保市長)

みちづくしin佐世保2019 道守九州会議交流会
課題解決と魅力ある活動を目指して

佐世保市のみどころ
九十九島、教会、鎮守府…

みちづくしin佐世保2019 パブリックミーティング
道守活動 Re Start!!

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を選び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、新しい道に一步踏み出そう。



人吉城公園（熊本県人吉市）

CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー
「Win-Win」の関係が大切
朝長 則男（佐世保市長）
- 02 みちづくし in 佐世保2019 道守九州会議交流会
課題解決と魅力ある活動を目指して
- 04 佐世保市のみどころ
- 06 みちづくし in 佐世保2019 パブリックミーティング
道守活動 Re Start!!
- 08 私の風景街道 —マイスター紹介
刈茅 重信（緑の里・耳納風景街道会長）
- 09 語り部さんのお勧めスポット
- 10 わたしの好きな道
人々の営みが創る 天空の大景観 ～阿蘇・草原を貫く道～
中村 幸子
- 11 私たちの道守活動
- 12 道路部から
・島原半島うみやま街道が日本風景街道登録
・阿蘇くじゅう国立公園のインバウンド誘客
・「筑前みなみの里」新規登録
・グリーンスローモビリティの効果的導入実証事業決定（由布市）
- 16 海外道事情
「造れ、造れ、造れ運動」を推進
充実する交通インフラ
塚原 健一
- 17 道守人物伝・横顔・道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭 インタビュー

NORIO TOMONAGA

朝長則男

佐世保市長

「Win-Win」の関係が大切

——道守九州会議が発足して15年、この秋、長崎県佐世保市で「みちづくし」が開催されます。「道はみんなの財産」という思いで、長崎では道守の皆さんが道路清掃や花植えを行ったり、子供たちへの啓発活動を行ったり、道守活動を活発に展開してきました。

朝長市長 「みちづくし」が開催されるにあたりまして、佐世保市を選んでいただきましてありがとうございます。

道路は最も基本的な社会基盤・社会インフラであり、市民生活はもちろん、経済活動等何においても道路があることによってそれらが活発に行われます。道路に関わり、道路をきれいに保つていくという、社会貢献、ボランティア活動をする方々を「道守」と呼び、道路の清掃や花植えや道路の保守点検への協力を推進されてきたということとは存じており、感謝して

います。

佐世保市内の道路に関しては、建設業者で結成されたクローバー・ロード清掃隊という方々が、「観光のまち、佐世保」の玄関口である佐世保駅周辺等の清掃活動を行ったり、国土交通省のボランティアサポートプログラム（VSP）の一環として、小学校の児童の皆さんが花苗を育て、道守団体が道路沿いの歩道花壇に植樹作業や指導を行って、そして地区の町内連絡会が散水等の管理をしているという地域で連携した活動もあり、多くの皆さんが道路美化で景観向上やイメージアップに貢献していただいていると思っています。



また、佐世保市の事業として「させは美化プロジェクト」を推進しています。これは観光都市佐世保にふさわしいまちづくりや道づくりを進めるために道路沿いの花壇などに花植えをしていただいている事業で、今年で10年目を迎えております。当初は40団体ぐらいでしたが、今では91団体に増え、それぞれの地域の中で佐世保のまちの魅力向上、まちづくりに貢献していただいております。道守団体をはじめ市民の皆さんには大変感謝を

しているところです。「自分たちが使う道は自分たちできれいにしていこう」、「他地域から訪れる方々にも満足していただけるような、そういう道・環境を作り上げていこう」というような気持ちを強く持って、率先して活動していただいていることは、とても素晴らしいことだなと思っています。

——「住民と行政の協働」が重要になりますが、道守活動を進めるにあたって行政からの支援施策や計画について。

朝長市長 道路に関して市民協働の取り組みを支援する施策としては、本市では市道の草刈りや除草を行っていた地域団体等に対して奨励金を支給する「草刈り除草奨励金」制度や、市道を「子ども」に見立て、市民の方々がその「里親」となって花の植栽や清掃などをしていただく、「道路アダプトプログラム」という制度を作って、道路環境の保全にも努めています。また、市民と行政が協働する取り組みということでは、人口減少・少子高齢化により、空き家や空き地が増加する等、地域コミュニティの維持が困難になりつつある俵ヶ浦半島地域で、開発協議会を設立しまして、豊かな歴史・自然環境を持つ恵まれた住環境を生かした地域の活性化を図っています。

このように、いろいろな市民・団体・行政が協働して取り組ん

でいますが、その相互関係の中でどちらかに負担が生じると、以後の活動がなかなか積極的になれないというような傾向もあります。やはり協働に取り組む場合は「双方が満足して、お互いにメリットがあるWin-Winの関係」がとても大事なことで、楽しく協働のまちづくりをやるようにという事を考えています。

——私たちの道守活動の中で住民と行政が協働する「新しい公」という考え方というのは、今後の地方創生の大きなキーワードになってくると思いますが、市長のボランティア活動に対する基本的な考え方というのを教えてください。

朝長市長 今、市民のニーズや価値観というのが非常に多様化・複雑化しているということをよく言われておりますが、充分にそのニーズを吸い上げなければいけない。そうやってくると、地域の特性とか、また地域をよく知っていかなくては、そして地域に愛着を持ってもらえる市民の皆様方、そういう方たちが一緒にあってまちづくりをしていこうという気持ちになっていただくことが大事なことでないかなと感じています。

市民や町内会、市民活動団体、NPO、事業者など、多様な人々が主役になって、知恵や能力を出せる方が出しているだけで、「自発的な市民」と「行政」

のパートナーシップによる取り組みによって、地域の様々な課題を解決していくということが大事なことではないかと思っております。その自発的な活動の一つがボランティア活動ではないでしょうか。

また、様々な課題に対して、これまで以上に行政側がプロフェッショナルな組織として、前例にとられないようにチャレンジし、挑戦をして変えていく。そのために積極的にコミュニケーションをとっていく。Challenge、Change、Communication、この3つの頭文字をとって3Cと言っています。行政もそうですし、市民の皆様方もそういうような思いをもって取り組んでいただくといいのではないかなと思っています。

——この私たちの道守活動について今後どのようにして欲しいと思いますか。

朝長市長 皆さんの活動のように地道な活動が続けていくことが大事だと思います。また、この素晴らしい活動の輪を広げていくことも重要だと考えていますが、無理やり参加となるとどうしても義務感になり長続きしないということになってきます。なので、この道守活動の重要性や素晴らしさ、楽しさについてよく話をして、協力を求めているということが一番大事なことでと思います。



聞き手 道守長崎会議から、牧圭子、田口昭子、村里静則、大我龍樹の4名
舞台である佐世保市の朝長市長と対談しました

プロフィール

佐世保市長 朝長則男（もながのりお）昭和24年2月12日生。青山学院大学経済学部卒業。佐世保市議会議員、長崎県議会議員を経て、平成19年佐世保市長就任。趣味は野球、ドライブ、旅行。

課題解決と魅力ある活動を目指して

平成15年から九州各県で道守九州会議（「みちづくし」）が開催され、今年で16回目を迎えます。長崎県は2013年に続き3回目の開催となり、過去2回は長崎市での開催でしたが、今回は初の佐世保市開催となります。10月25日13時から交流会開始です。会場はアルカス SASEBO。佐世保らしさを取り込みながら、また、元号が令和へと変わって初のみちづくしとなります。

◆テーマ

「平成から令和へ」
道守Restart!!

「道守」が発足して15年が経過し、今年『平成』の時代が終わり『令和』の時代となりました。今までの「道守」の活動を振り返り、この「みちづくし」の交流によって、新時代に向けての各県の道守活動がさらに活発になり、また、新たな一歩が踏み出せるような交流会にしたいという思いを込めて今年のテーマにしました。

◆道守の生みの親

「岡本元局長による基調講演」
道守の生みの親・元国土交通省九州



岡本博（おかもと・ひろし）
1979年建設省（現国土交通省）入省。道守会議創設時に九州地方整備局道路部長、その後九州地方整備局長を経て、2018年から日本道路交通情報センター副理事長。

地方整備局長岡本博氏を迎え、「道守の原点を振り返り、新時代に向けて道守に期待すること」と題して基調講演を行っていただきます。

◆佐世保独自の活動事例紹介

佐世保市は平成22年度から「させほ美化プロジェクト」を実施しています。道路の植栽帯などを花でいっぱいにし、道路空間の高質化を図り、観光都市「させほ」としての魅力向上を図るとともに、市民の皆さんが親しみが持てる道づくり・まちづくりを行うものです。国道35号などにおいては、国土交通省と協力し、地域の小学生による育苗、花の植え付けを行い、地域住民が水やりを行って管理するという仕組みがボランティアで行われています。

◆パブリックミーティング

道守が発足し、十数年にわたり道守活動を行ってきた中で、様々な課題や問題点を抱えていると思います。みちづくしの後半では、そんな悩みを共有し、また、各地域で行っている課題解決に向けての新たな取り組みや、どのような活動を展開すると魅力的な活動になるか等をみんなで話し合うため、会場全体が参加するパブリックミーティング

◆佐世保らしさを

味わってください

みちづくし in 佐世保 2019 実行委員会では、各県の道守の皆様は佐世保らしさを味わってもらうため、2日目の現地体験学習のコースも魅力的なコースをつくり、色々と趣向を凝らしたおもてなしを検討しているところです。道守の皆様、是非、佐世保へお越し下さい。お待ちしております。
（みちづくし in 佐世保 2019 実行委員会）



会場は「アルカス SASEBO」佐世保駅から徒歩5分の好アクセス！皆様のお越しをお待ちしています。

◆現地体験学習コース

コース① 海軍さんの港コース

普段は一般の立ち入りができない、海上自衛隊佐世保地方総監部地内の地下壕にある「防空指揮所」跡は、旧海軍鎮守府が1944年に運用を開始し、管区内の防空指

揮を担いました。ツアーではその指揮所跡の見学をはじめ海上自衛隊や米海軍など艦艇を海からご覧いただける軍港クルーズもお楽しみ頂けます。

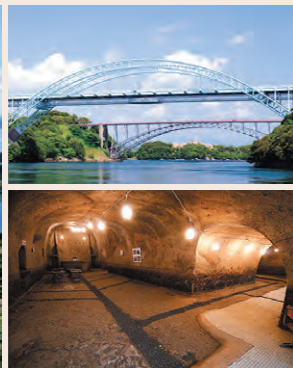


- 8:35 JR 佐世保駅みなと口集合（徒歩にて移動）
- 8:45 SASEBO 軍港クルーズ(60分)（徒歩にて移動）
- 10:20 海上自衛隊佐世保地方総監部・地下壕
- 12:30 くらま食堂にてカレー昼食（徒歩にて移動）
- 12:45 セイルタワー
- 14:00 現地解散

コース② 日本遺産めぐりコース

平成28年に日本遺産に認定された「佐世保鎮守府」の開庁130年を記念して構成遺産などを巡るコースで、佐世保鎮守府の施設、資産が持つ魅力に迫ります。今も活

用されている佐世保鎮守府の遺産を間近で感じることができるコースです。

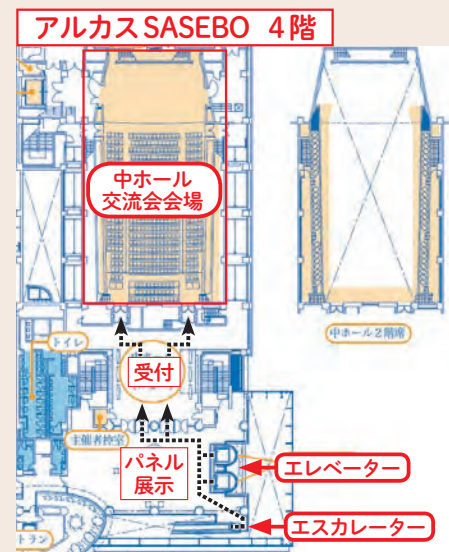


- 8:20 JR 佐世保駅みなと口集合
- 9:00 針尾無線塔
- 【保存会ガイド説明】
- 10:10 西海橋と新西海橋
- 【新西海橋を徒歩にて見学】
- 11:00 無窮洞
- 【保存会ガイド説明】
- 11:45 梅枝酒造
- 【見学・試飲、買物】
- 12:50 JR 佐世保駅みなと口着（解散）

みちづくし in 佐世保 2019 会場案内

●アルカス SASEBO

佐世保市三浦町2-3
JR 佐世保駅、佐世保駅前バスセンターから徒歩5分



佐世保市のみどころ

●佐世保鎮守府と日本遺産

明治22年に佐世保港が開港し、佐世保鎮守府が開庁してから本年で130周年を迎えました。鎮守府とは、軍港における海軍の本拠地のことで、佐世保では明治から大正期にかけて、最先端の技術と最高の人材が投入され、艦艇等を造る海軍工廠（軍需工場）など様々な施設がつくられ、水道・鉄道などのインフラも続々と

整備されました。

平成28年4月鎮守府が置かれた他3市を含む（横須賀、呉、舞鶴）旧軍港4市のストーリーが「日本遺産」に認定されており、佐世保市では、国指定重要文化財の旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設など、合計27の構成文化財が認定されています。



針尾送信所



佐世保市民文化ホール



250トン起重機

●祝・世界文化遺産登録！

平成30年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産のひとつとして、「黒島天主堂」を含む「黒島の集落」が世界文化遺産に登録されました。九十九島のひとつである黒島は、東西に4.5キロ、南北に2キロ、島の周囲が12.5キロほどの島で、島民の8割がカトリック信者です。かつて幕府の禁教令による厳しい弾圧と監視の中で、信仰を守り抜いた潜伏キリシタンの子孫たちが、今もこの島の文化や自然を守り、信仰と共に生きる暮らしを受け継いでいます。

黒島のシンボルである黒島天主堂は、2018年2月より保存修理工事を実施しています。2021年3月末まで（予定）は、敷地内への立ち入りを制限しています。※工事の進捗によっては工事期間が延期されることがあります。



●九十九島かき食うカキ祭り

11月と2月の土日祝に、九十九島パールシーリゾートで開催されるセルフバーベキュースタイルで楽しむ恒例イベントです。会場には400台の焼台がズラリと並びます。九十九島かきは小ぶりでぎゅっとつまんだ濃厚な味わいです。



●佐世保発祥 レモンステーキ

日本人の口に合うステーキを！という発想のもとに食べやすい薄切り牛肉がアツアツの鉄板で運ばれてくるステーキ。このステーキに欠かせないソースは、醤油ベースでレモン果汁たっぷりの爽やかな味わいです。



●海軍さんのビーフシチュー

佐世保に縁が深いといわれる東郷平八郎がイギリス留学中に会い、日本に伝えたというビーフシチュー。明治時代の海軍のレシピをもとに各店がアレンジを加えたものが楽しめます。



●佐世保バーガー

昭和25年ごろ、アメリカ海軍から直接レシピを聞いて作り始めたのがその起源といわれています。最大の特徴は注文を受けてから手作りされること。店ごとで大きさや味などこだわりもさまざま。具材のバリエーションも多彩です。



●九十九島パールシーリゾート

自然豊かな九十九島で生まれ育った、さまざまな生きものに会える九十九島水族館「海きらら」をはじめ、遊覧船での九十九島めぐりや、マリンレジャーなど、九十九島の魅力を体験できる複合施設です。「海きらら」では2018年9月に国内4例目となる、人工授精によるイルカの赤ちゃん「アイル」も誕生しています。



「海きらら」内九十九島湾大水槽



遊覧船「パールクイーン」



●展海峰

九十九島を180度パノラマで一望できる、市内随一の展望台です。展海峰にある1haの花園では、春には15万本の菜の花、秋には15万本のコスモスが咲き誇ります。



展海峰からみた九十九島

道守ふくおか会議



道守ふくおか会議 世話人
道守柳川ネットワーク代表
山田 三代子

後継者不足が課題

道守柳川ネットワークは、平成16年8月に13団体210名で発足し、現在は30団体600名を超える会員が清掃活動に参加しています。

発足から10年以上が経ち、各団体の代表や会員も変わり、道守活動の趣旨が団体の中で引き継がれず、なぜ活動しているのか、わからないまま活動している団体も見られます。団体の解散に伴い、道守からの退会も見られることから、企業・団体・個人の道守への新規加入、道守団体空白地域への活動拡大、活動の認知方法（PR等）、活動の活性化、関係自治体との連携方法や活動資金確保についても課題です。



道守柳川ネットワーク
「H30有明海沿岸道路(筑後川橋)現場見学会」

道守佐賀会議



道守佐賀会議 事務局
NPO法人唐津環境防災推進機構
KANNE 理事
(玄界灘風景街道に参画)
木村 剛

活動の幅を広げたい

環境ネットワークKANNEは、県道347号線が通り、国定公園に指定されている特別名勝「虹の松原」の再生保全活動を行っています。

現在約7,000名の方が登録されていますが、近年は頭打ちになっており、活動に参加されない方も増えてきています。また、活動エリアが国定公園ということもあり、活動に多くの制限がかかります。私たちの課題は、「活動人数の増加及び活動者の呼び戻し」と、「今後活動の幅をどうやって広げていくか」が私たちの課題だと考えます。



虹の松原再生保全活動

道守大分会議



道守大分会議 事務局長
木ノ下 結理

資金、人材―課題山積

長年続けていくには様々な課題がありますが、主に①資金面（年間予算の確保）、②人材面（高齢化・人材不足）、③支援面（県・市町村とのつながり。事務所の後方支援）、④組織面（いままでの道守、これからの道守の在り方）が重点です。資金・人材不足による作業継続の不安、高齢化による体力の限界、一人当たりの負担増加、団体内での温度差によるチーム力の低下など、マイナスイメージをいえば限りなく課題が出てきます。

ボランティア活動に対して意識の希薄化、地域社会のコミュニケーション意識の衰退・無関心などの状況を感じます。



道守青空教室

道守くまもと会議



道守くまもと会議 世話人
岡田 敏代

高齢化と活動の継続

道守活動の課題については、二点ある。まず、資金だ。殆どは苗代や肥料、そして水栓などの道具の購入に使う。

次は、高齢化。道守活動を始めた時は若者だったが、15年もたつと、みな中年に差し掛かってきた。周りの仲間も70代を過ぎた人が多い。高齢になると疲れやすくケガもしやすい。動作もスローになる。変わらないのは元気と情熱だけ。ただ、元気と情熱がいつまで続くかはわからない。



道守花壇(熊本市・麻生田)

道守みやざき会議



道守みやざき会議 事務局長
石田 達也

広げよう他団体との連携

・他の道守会議との連携や3者連携（道守・道の駅・

日本風景街道）について

（勉強・交流会の検討。今後、他団体との連携を拡げていきたい会員はどのようなにしたらいいか。）

- ・会員の高齢化に伴う参加人数の減少
- （代表や会員の皆さんが高齢になり、次世代に継承していくにはどうしたらいいか。代表が亡くなられた団体は組織単位での継続が課題。）
- ・会員の意識格差



日向サンパーク温泉

道守かごしま会議



道守かごしま会議 代表世話人
田島 直美

さらに活動の魅力を

道守かごしま会議は、84団体、約6227名の会員がいます。それぞれ個々の団体は地域に根ざした活動を展開していますが、道守かごしま会議として一同に会して美化活動や花植えをすることは難しい現状です。今回、道守さんが参加したくなるような

道守長崎会議



道守長崎会議 代表世話人
牧 圭子

もっと、若者の参加を

「魅力ある道守会議であるためには」をテーマにワークショップを行い課題、問題点を洗い出しました。

- ① 道守の知名度がない。
- ② 新しい事業の資金調達
- ③ 地域の活動団体と連携しての活動の展開
- ④ 観光客へ地域のアピール



ワークショップ



サッカー観戦とコラボした道守活動

語り部さんのお勧めスポット

吉井町は緑の里・耳納風景街道のほぼ中央、豪壮な白壁の町並みが現れる。春、桃の節句には白壁の家々に豪華な雛飾り。それを楽しみに多くの人がこの町を訪れる。

高倉さんは伝統の白壁の家々を案内するボランティア。声も良く通る。案内されたのは「居蔵の館」。1300㎡の敷地に500㎡の2階建て、居住と蔵が合体した豪壮な町屋。玄関から土間へ入ると、「どうです、この柱」。ケヤキの一本柱が男と女の2本、ぴかぴかに光って、二階まで突き抜けて立っている。大きな神棚、縁が漆の床の間からトイレや浴室の天井まで細かなデザインが施されている。



白壁の街「吉井」を案内する高倉伸介さん

高倉伸介さん（筑後よい案内人）

白壁の街並み 筑後・吉井（福岡県・うきは市）



吉井は久留米城下と天領・日田を結ぶ「日田往還」の宿場町として発展した。肥沃な筑後平野が産する米、麦、ハゼの実などの一大集散地となり、その製品である酒、しょうゆ、蠟、菜種油づくりの産業が急成長。町の中心地には大店が軒を並べ、蒸気機関車（筑後軌道鉄道）が走った。文豪・夏目漱石もこの町に泊まって、俳句を残している。

ところが、3度もの大火に見舞われ、防火効果が高い漆喰の厚い白壁が屋敷や町屋に使われ、今日の白壁の街並みが出来上がった。

平成8年度文化財保護法による国「重要伝統的建造物保存地区」（福岡県初）に指定された。

私の風景街道

刈茅重信氏

（緑の里・耳納風景街道会長）



九州風景街道は沿線住民（パートナーシップ）の日々の活動によって支えられている。活動の中心になっているのが「マイスター」の方々だ。リーダーとなって魅力ある道づくり、沿道の景観整備に情熱を注いでいる。日々の活動や愛する風景街道の魅力、将来の夢など「私の風景街道」への思いを語ってもらう。

出来ず。また、各所に果樹園があり、巨峰をはじめ柿、いちごなど様々な果物を楽しめます。歴史と自然の両方を楽しめるルートとして「豊潤な水とみどりフルーツに彩られた道」を設定しております。

また、私が企画、運営に関わっているイベントとして、毎年11月3日に行われる「みのう校区山苞まつり」があります。このイベントでは、小学生による様々な出し物や、地元のお店に露店を開いてもらっています。約3000人が来訪し、地域に賑わいをもたらしてきました。

上記以外の活動としても、水縄校区のウォーキング大会や水縄祭りなどを通し地域内での魅力の再確認を促してきました。新たな試みを行う際には、多くの人を引き込み、私が実際に企画・運営を行いながら地域の指導、育成に取り組んでいます。これらの活動により、私が会長



JR田主丸駅 ユーモアあふれるカッパの駅



ワイナリーに貯蔵されたワインの樽

マイスターは語る 祭りだ祭りだ！歴史と自然を楽しもう



太鼓も勇しく水縄祭り



子供たちが熱演—みのう校区山苞祭り

を退任した後でも祭やイベントが途絶えることのないような基盤の整備を行っています。今後もこの活動を継続していく、九州風景街道マイスターとしての任を果たしていきたいと考えております。

安元知之氏と「うきは野外円形劇場」



安元知之氏

筑後平野を走る耳納風景街道の東端に位置する道の駅「うきは」。重要道の駅にも指定され、新鮮な野菜や果物を求めて、多くの人が集まってくる。「くど造り」の3棟の建物が、農村の雰囲気を出している。

その西端の斜面に、古代ギリシャ風の小さな円形劇場がある。石を半円状に積み上げた観客席から筑後平野の、季節によって緑、黄金色と移り変わる田園風景が一望できる。

「なぜ、ここに円形劇場か」と誰もが思う。白壁の町・吉井とは対照的に、この山脊地区は明治から大正時代にかけて、貧しさにあえぐ農村。青年たちは村の医師、安元知之氏の指導の下、西洋演劇を取り入れた演劇運動を展開した。円形劇場は彼らの晴れ「舞台」なのだ。当時、芸術運動として「新劇」活動があり、川上音二郎が一世を風靡していた。

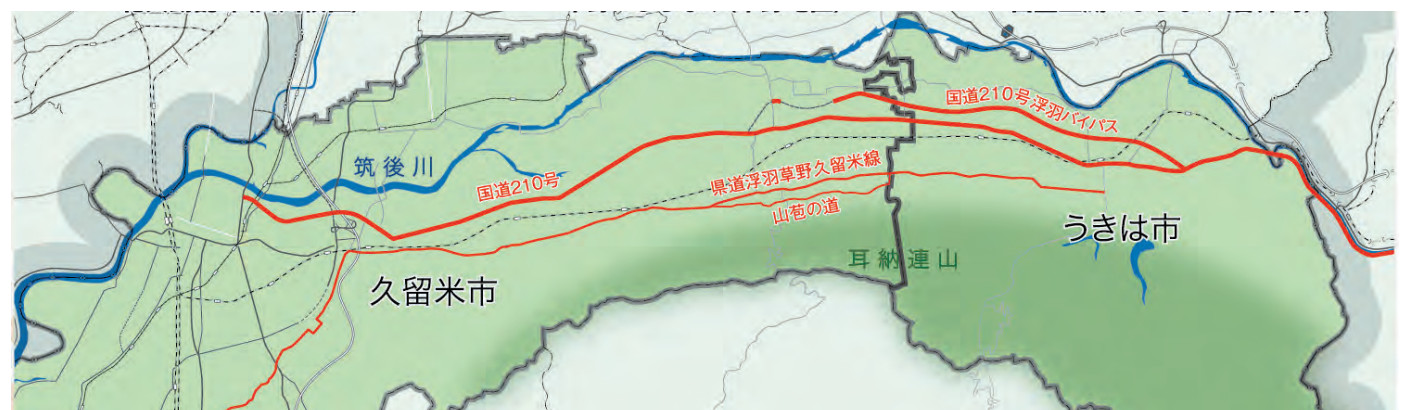
農村青年たちの夢の跡、蘇る



復元された円形劇場

青年たちは農民劇団「嫩葉会」を結成。農作業をしながら、台詞を覚え、夜は安元医師の指導で演技を磨いた。公演は人気を呼び、久留米や日田などでも公演するまでに成長した。「俺たちの舞台が欲しい」。大正12年、当時の村長をはじめ村人たちが総出で作り上げたのが、この円形劇場だった。

しかし、安元医師は39歳で病死、リーダーを失った「嫩葉会」の火も消えた。戦争、大恐慌の時代の荒波もあった。円形劇場での公演は1度もなく、雑草に埋もれて行った。平成28年、発掘調査が行われ、復元された。ゴツゴツした石の観客席に座ると90年前、演劇に心の火を燃やした青年たちの夢が蘇ってくる。





地域住民や学生たちと年2回の花植え



ビブスを着用して観光客へアピール



警固小の子どもたちと花植え

福岡
 地域からの報告
 特定非営利活動法人
 はかた夢松原の会

はかた夢松原の会は、1987年「海辺に愛を植えよう」と松苗植樹を始め、
 「水と緑とまちづくり」をテーマに32年間活動、2004年、道守九州会議が発足したと同時に道守会員として参加しました。

2003年、福岡市が放置自転車全国ワーストワンになったことから、放置自転車の実態調査やマナー

水と緑とまちづくり 32年間

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

向上、シンポジウム開催など市民とともに実施し、福岡市に提言、福岡市は自転車課を設置し、駐輪場が充実されました。

その後、2010年までの5年間、市内全域で街路樹や公園の緑の総点検を実施し、「公園を結び目として緑の帯を繋ぎましょう」と市長に提言、実践の場として2011年、警固から春吉間で『国体道路花いっぱい運動』を始めました。放置自転車やごみの多さ、歩行環境の悪さを目の当たりにし、環境改善にチャレンジすることにしました。学生や沿道店舗、地域住民などを巻き込み、年2回の花植えと月2、3回の清掃や

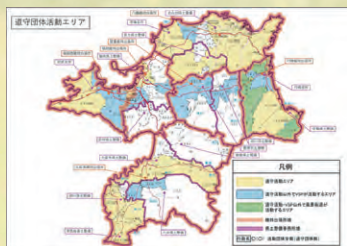
世代を超えたコミュニティで情報交換が充実し、2018年に福岡市が始めた「一人一花運動」と協働で花いっぱいのまちづくりに貢献しています。

今後も「ごみゼロ、放置自転車ゼロ、来街者のマナーアップ啓発で快適・安心・安全な国体道路」を目指し『国体道路花いっぱい運動』を続けていきます！

(理事長 儀谷慶子)



「民間助成制度リスト」に関するアンケート



道守団体活動エリアマップ

(代表世話人 吉武哲信)

最後に、道の駅や風景街道との連携が創造できるような活動も推進していきたいと思っています。

道守団体の実態調査を踏まえ、活動拡大を目指す！

道守ふくおか会議

道守ふくおか会議は、県内を県北・県央・県南の3つのブロックに分け、相互に連携・情報交換しながら活動しています。当会議に所属する道守団体の課題や活動の活性化を把握するために、全団体へ「民間助成制度リスト」に関するアンケート調査を実施しました。人材育成や確保について一部の団体に調査したところ、現在は困っている状況にはなかったため、今後は対象を拡げ、詳細に聞き取り調査を実施していきたいと考えています。

また、当会議に登録している団体の所属市町村をマッピングした結果、空白地帯があることから、県管理の道路で活動している団体について、当該市町村と協力しながら参加を呼びかけていく予定です。

当会議では、清掃や花植活動などの美化活動だけでなく、勉強会や見学会など活動内容を拡大することにより、新規加入者を取り込めるように魅力ある活動を展開していくことを目指しています。

天空と一体となる道



阿蘇五山の山なみ



春の訪れを告げる阿蘇の野焼き

わたしの好きな道

人々の営みが創る 天空の大景観 ～阿蘇・草原を貫く道～

広々とした草原が広がる九州一の観光地・阿蘇。私は、草原を貫く「道」を走るのが好きだ。草原の殆どは北海道に集中しており、温暖な気候の九州に草原があること自体が珍しい。阿蘇の草原は、道を境に天空と一体となり、どこまでも続いている。

温暖な気候の九州では、植物の成長が早く草原はすぐさま雑木となって生い茂り、その後、樹林帯となる。なのに、何故、阿蘇の地域には、このように草原が広がっているのだろうか。

それは、千年以上も続く人々の努力のお蔭なのである。阿蘇では、千年以上も前から、毎年野焼きを繰り返して、草が雑木に移行するのを防いできた。

阿蘇の風物詩「野焼き」は、草原という景観を作り出す重要な営みなのである。この草原では、放牧がおこなわれ、牛馬は自由に自然の草をはみ育てられた。阿蘇と牛馬、そしてどこまでも続く草原と、それを貫く道を走ると体中に喜びが走り出す。信号機もない道は、九州中のライダーの聖地ともなっている。

野焼きは、毎年2月から3月頃に行われ、阿蘇の野山に火が放たれる。もちろん、火入れを行う場所は決められており、火事にならないように厳重に管理されている。

野焼きの阿蘇を見物するために、観光客が訪れる。その後、暫くは黒い阿蘇となっているが、4月新芽が出だすと、阿蘇は段々と緑色に変化し、その後5月には燃えるような草原が出現する。暫く青々として草原が広がっているが、九月になるとススキが出現し、美しいベージュの世界となる。阿蘇の草原は、季節ごとの色を楽しめるのだ。

私の好きな道は、阿蘇の草原を貫く道。阿蘇の草原は、人々の努力の賜物。人々の営みが続くことが草原が続くこと。ずっと、いつまでも続いてほしい。

プロフィール

中村 幸子 (なかむら・ゆきこ)

平成16年、道守くまもと会議の発足に係り、その後会議の事務局長となり、多くの活動を支える。平成28年熊本大地震の際は、道守くまもと会議の多くの被災会員の支援に走りまわり、道守くまもと会議の活動の継続を支えた。道守くまもと会議の100近い団体の連携を束ねている。



佐賀



松尾建設株式会社（佐賀市）

地域社会との
コミュニケーションを大切に

松尾建設株式会社は「常在 お客様貢献」を企業理念に、地域社会とのコミュニケーションを大切にしながら、社会の環境保全に取り組みんでいます。

毎週金曜日に社屋周辺の清掃を行なっているほか、佐賀の一大イベントであるバルーン大会の会場内清掃や桜マラソンのコース周辺の清掃なども毎年実施しています。

そのほか、各現場周辺の美化活動にも取り組んでいます。先日の「みちづくしん佐賀2018」でもご紹介しました現在当社が施工している呼子大橋補修工事の現場では、唐津市呼子町のシンボルになっている新さが百景にも選ばれた呼子大橋を工事中の現在も、訪れた方たちに気持ちよく過ごしていただけるよう清掃活動を行い環境美化に努めています。



バルーン会場での清掃活動



毎週金曜日に実施している
清掃活動



呼子大橋での清掃活動

これからの、道路事業に携わるものとして自社の技術を最大限に生かした良質施工と心を込めた清掃活動で道路環境の維持に努め、道守会員の皆様とともに道路を守り育てていきたいです。

（佐賀支店営業部 石井那知）

長崎



ここにクリーンさが（北松浦郡佐々町）

清掃活動 200回達成！

佐々町で清掃・美化活動に取り組むボランティア団体「ここにクリーンさが」は結成20年を迎え、令和元年6月2日で200回目の活動となりました。

「自分達の町は自分達の手できれいにしよう」を合言葉に地元商店街の店主ら35人で始めた活動の輪は少しずつ広がり、今では約250名がメンバーとなっています。

毎月第1日曜日の朝に約100名前後の方が集まり、清掃や花植え活動がはじまります。皆さん熱心に活動してくれるので1時間ほどでゴミ袋約50袋が積み上がります。

町外の方から「町がきれい」とお褒めの言葉を励みに続けてきましたが、これからは「日本一きれいな町」を目指すことによって、佐々町の交流人口の増加、定住人口の増加に繋がればと思っています。

（会長 西尾弘毅）



清掃活動前の集合写真



清掃活動の様子

熊本



道守くまもと会議（熊本市）

仲間がいるから道守活動

道守活動をはじめ、15年。最初は若者の集まりであつた道守さんも、みんな白髪が混じっているような年齢になった。



道守花壇

しかし、道守活動を行っている人は若くて元気だ。作業には、少々不向きな体になっているが、道を美しくしたいという意欲は衰えていない。熊本の道守活動の一番つらい季節は夏場。じつりと皮膚をつたう汗と格闘し、高温多湿にめげずに、早朝に作業を行う。



県央会議活動

道守活動を続ける原点は、人とのつながり。活動を通じて知り合った仲間がいるからこそ、継続している。お互い年齢は重ねているが、道守活動を通して、美しい景観づくりを行っていききたい。

（事務局 中村真希）

大分



道の駅みえ（豊後大野市）

咲き誇れ！ 子どもたちの未来

国道326号沿いに、平成16年10月にオープンした道の駅みえは、絶景・江内戸の景（ジオサイト）が望める高台にあります。国道沿いのゴミ拾いは人手不足の為、最近では時々しか活動出来ず申し訳なく思っています。以前はボランティアで清掃されていた地域の方々も高齢化し活動が厳しくなってきたのが現状です。

そんな中、道守の皆さんと連携し、道の駅みえだけでなく、県下を綺麗にする運動と一緒にいたいと思います。大分県の『おおいたうつくし作戦なまづくり事業』で、道の駅みえを訪れる方々を華やかにおもてなししよう！と参加型の花植えを企画しました。

地元菅尾小学校の3～6年生には、プランターに「将来の夢」を描いてもらい、1～2年生と、地域の方々、県市職員、佐伯河川事務所の皆さん総勢約50名にはそのプランターに花苗の植付けを行ってもらいました。想像以上のおもてなしプランターが出来上がりました。大分県にお越しの際は、是非おもてなしプランターと、江内戸の景を見に道の駅みえにお越しください。

（駅長 後藤節子）



おもてなしプランターに
花苗の植付け



おもてなしプランター



江内戸の景

宮崎



株式会社アップス（日向市）

国道10号 道守活動の広がり

私たち（株）アップスは宮崎県日向市に本社を置き、主に測量・設計・補償・建築設計を行うコンサルタント会社です。

現在、二カ月に一回のペースで国道10号のゴミ拾い、除草等の活動を行っています。

日向市は、サーフスポットが多く県内外からたくさん観光客が訪れます。このため、近年、国道10号の四車線化が計画・施工中です。この日向市の道路の顔ともいべき国道10号は、道守活動を始めた当初はゴミが散乱している箇所も見受けられました。しかし、道守活動を行っていく中で、地域の方々との挨拶やコミュニケーションが進むにつれ、ゴミの量も確実に減少してきています。

道守活動のすばらしい点は、ただ道路を綺麗にするという事だけではなく、その周辺にお住まいの方々のコミュニケーションを取れる事だと思っています。今後も社会貢献の一環として道守活動を行っていききたいと思います。

（測量設計課長 黒木裕）



道守一斉活動(国道10号:
日向市大字財光寺)



国道10号(日向インター付近)の清掃活動の様子

鹿児島



薩摩川内市商工会女性部（薩摩川内市）

四季の花々のおもてなし

私達薩摩川内市商工会女性部は、高城、東郷、樋脇、入来、祁答院、里、上郷、下郷の8支部の女性部で構成され、165名の部員が在籍しています。各支部、地域のイベント等を支援し、花に関わる道守活動にも積極的に携わっています。

高城支部では商工会周辺の清掃や花壇を設置し色とりどりの花を植える活動をしています。里支部では、県道348号線にある合併記念碑の周辺に鹿の子百合や四季の花を植えています。

下郷支部では、町内5箇所に紫陽花を植え、毎年清掃・お手入れを行い、梅雨時には、鮮やかな花を咲かせ、地域の方々を楽しませています。

入来支部では、国道328号沿線にある君が代発祥と言われる大宮神社の入り口に花壇を設置し四季の花々を植え、花壇の清掃を実施し、観光客のおもてなしをしています。

また、ドライバーの皆様がその鮮やかな花で癒され安全運転されることを心から願っています。薩摩川内市も平成26年より「花いっぱいまちづくり推進」を実施しております。女性部一人ひとりの小さな活動が薩摩川内市の花いっぱい運動に貢献し、子供たちの明るい未来の為に、色とりどりの花に囲まれた薩摩川内市に成ることを願ってこれからも活動していききたいと思います。

（薩摩川内市商工会 事務局 長中島道彦）



里女性部



入来支部女性部

■九州で十五番目、登録証交付式を開催

平成31年3月18日(月)に九州で15番目のルート「島原半島うみやま街道」歴史と水と温泉のまち」が日本風景街道に登録されたことを受け、令和元年6月15日(土)に「島原半島うみやま街道」歴史と水と温泉のまち」登録証交付式及び、地域活性化シンポジウムが島原復興アリーナ(長崎県島原市)で約三百人が参加して開催されました。

登録証交付式では、島原半島うみやま街道エリア内にある島原市、雲仙市、南島原市のほか、県内外から参加者があり、九州風景街道推進会議の明石博義会長から島原半島うみやま街道推進協議会の宮田隆会長へ登録証が手渡されました。宮田会長からは、島原半島全体が風景街道のエリアになったことで地域一体となって地域活性化に取り組んでいきたいとの熱い思いを伝えられました。

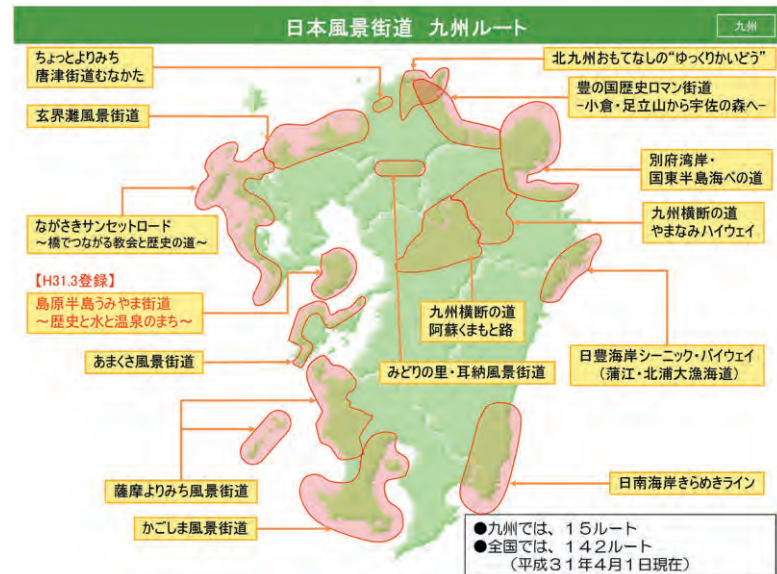
また、明石会長、構成員(九州風景街道推進会議)の他、パートナーシップ構成団体代表として島原市、雲仙市、南島原市の各市長からも、ルート登録によるこれからの更なる発展を期待する挨拶を頂きました。

交付式後に開催されたシンポジウムでは、玉川委員(九州風景街道推進会議)の基調講演の他、パネルディスカッションで今後の島原半島うみやま街道の展望や、風景街道の更なる発展と連携について活発な議論がなされました。

島原半島 うみやま街道が 日本風景街道登録



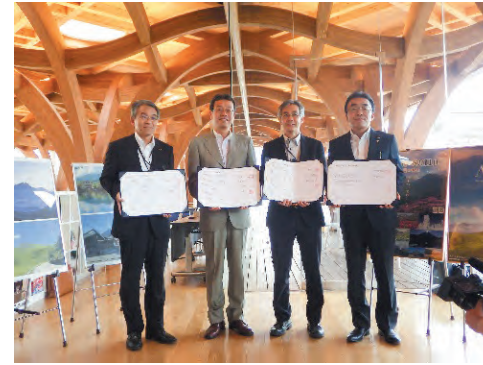
明石会長から宮田会長へ登録証交付



■阿蘇くじゅう国立公園のインバウンド誘客

大分・熊本両県にまたがる阿蘇くじゅう国立公園の魅力の世界に発信し、インバウンド誘客を進めることを目的に、国土交通省、環境省、西日本高速道路(株)、大分県の四者が全国で初めて連携協定を結びました。この連携協定により、PR動画での情報発信や、多言語サービスなど、それぞれの立場で国立公園の情報発信を進めます。連携協定に基づき道の駅「ゆふいん」では、ビクターセンターが提供する体験プログラム等の紹介や、さまざまなハイウェイのツーリング等のVR(仮想現実)体験など、外国人観光客がより阿蘇くじゅう国立公園の魅力を感じることができるよう取り組みを検討していきます。

今後もさらに外国人観光客の増加が見込まれる中で、きめ細やかなおもてなしができるよう、取り組んで参ります。



連携協定調印式

■「筑前みなみの里」新規登録

「道の駅」は、平成5年に創設された制度で、市町村等からの申請に基づき、国土交通省道路局で登録を行っております。

令和元年6月19日に新たに6駅が登録され、九州では、今回、道の駅「筑前みなみの里」が新たに登録されました。全国の「道の駅」は、1,160駅となり、九州・沖縄では142駅となりました。

道の駅「筑前みなみの里」は、福岡都市圏と筑前町周辺地域を結ぶ主要地方道筑紫野三輪線沿いに位置します。(場所：福岡県朝倉郡筑前町三並866番地)

今後、弁当工房や区域隣接地への観光農園整備による更なる農業振興・観光振興を強化すると共に、道の駅として道路情報・地域情報発信機能や防災機能を整備・強化することによって、筑前町を中心とした周辺地域の観光・情報・防災の拠点施設となることを目指していきます。



道の駅「筑前みなみの里」イメージパース

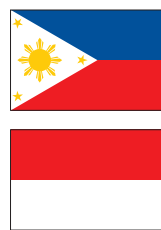
■グリーンスローモビリティの効果的導入実証事業決定(由布市)



実証事業のモデルとなったスイス・ツェルマット

大分県由布市は、「Inclusive Design 誰もが楽しめるまち ゆふの暮らしと観光」というコンセプトの下、2019年度「IoT等の先端技術を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業」に取り組むこととなりました。

地域のスローな暮らしが織り成す風情と由布岳を拝した景観、歓楽街を廃したまち並み等の魅力により日本有数の温泉観光地となった由布院温泉において、環境負荷の小さな新しいモビリティを導入し、国内外から訪れる観光客の利便性向上を図ると共に、地域の交通問題を解消し、住民の「暮らし」にも役立つ、誰もが楽しく感じられる由布院らしいグリースロスタイルの確立を目指します。



「造れ、造れ、造れ運動」を推進 充実する交通インフラ

今年の7月、8月でフィリピン（マニラ）とインドネシア（ジャカルタ）を訪問する機会を得ました。両国とも20年前、小生が3年間勤務した土地で、久しぶりにゆつくりと道路や鉄道などの交通インフラの整備状況を見て回ることができました。

フィリピンではドゥテルテ大統領がインフラ整備について、「Build-Build-Build Program（造れ、造れ、造れ計画）」を推進しています。これまでフィリピンはアセアン主要国の中では圧倒的に交通インフラの整備が遅れ、深刻な交通問題を抱えていましたが、近年はこの計画に沿って高速道路や通勤鉄道などの整備が積極的に進められていて、日本からも数千億円単位の交通インフラの支援が行われています。大統領の任期が終了する2022年までにインフラ投資を国内総生産の7.3%と、これまでの政権の3倍に引き上

げる野心的な計画で、どこまでインフラ整備が進むか次にマニラを訪問するのが楽しみです。

インドネシアでも、世界最悪とも言われるジャカルタの交通問題を解決する努力が進められています。ジョコ大統領は今年7月の第二期政権発足にあたり、インフラ開発を政権方針の第一に掲げました。今回は小生の研究室のインドネシアからの留学生の研究でジャカルタ近郊を廻ってきましたが、この数年での交通インフラの整備（建設中も含む）に驚かされるばかりです。まずは小生が駐在中の1990年代には夢のまた夢と思われる



ジャカルタの渋滞状況－14時でもこの状況です、通勤時ではありません－



南北線のBlock-M駅

いた地下鉄が開通しました。日本の資金・技術協力案件ですが、駅、車両とも素晴らしい、また1分たりともダイヤが乱れないのを見て、とてもうれしく思います。まだ南北線の一部が開通したのみですが、今後南北線の延伸及び東西線の整備により、ジャカルタの通勤事情が飛躍的に改善することが期待されます。

東南アジアのインフラ開発関係者は幸いにも日本ファンが多く、日本の交通インフラは素晴らしい、とほめてくれます。確かに新幹線や首都圏の鉄道・地下鉄網は素晴らしいものです。しかし現実には本道の事情はどうか？ジャカルタ周辺は昔から日本からの高速道路支援が続く、現在では2環状道路、3放射道路（短いものはさらに2路線）が整備されています。その多くは片側3車線の

立派なものです。さらにこの3車線では足りず、高架で2車線を追加整備（合計5車線）している路線もあります。ただでさえ、人



既設の高速道路の上に、さらに高架高速道路を建設中

口も増加中で若年人口も豊富で高い経済成長率を維持しているフィリピンやインドネシアで、さらに政権の最優先課題として生産性を高める交通インフラを政権の第一優先として推進しています。いつまでも「日本は先進国だから」とあぐらをかいていては、気が付いたら東南アジア諸国に追い付かれているかもしれせん（現にシンガポールと香港には抜かれています）。わが国ではいまだに片側1車線の道路が「高速道路」と胸を張っています。いつの日か、東南アジアの国々から「日本の道路整備は遅れてるね」と言われることがないよう、我が国も頑張つてゆかねばならないとの思いでジャカルタを後にしました。



プロフィール
塚原 健一
九州大学大学院工学研究院
附属アジア防災研究センター教授。道守九州会議
副代表世話人

道守 人物伝

佐世保の街にきれいな花を

佐世保市 潮見小学校区町内連絡会 会長 藤田 孝徳さん（74歳）
潮見小学校区町内連絡会会長藤田孝徳でございます。私は長崎県佐世保市潮見町において理容院を営んでおります。昭和61年頃より佐世保市立潮見小学校の児童が安全に通学できるよう雨の日も風の日も毎日見守り活動を行ってきました。



平成17年にJRR佐世保駅近くの国道35号線、潮見交差点付近の電線地中化工事で歩道などが整備されたことから、緑化活動の一環として毎年春と秋の年2回、潮見小の全校生徒約170名が自分たちで種から育てた花苗（春はマリーゴールド、秋はノースポールなど）を国道の植栽帯に植える活動を行っています。私たち連絡会は花植えの前に潮見小の3年生と一緒に植栽帯の草取りをしています。その際に、植栽帯の土は栄養があるので、土をきちんと落としてからゴミ袋に入れるように小学生に伝えています。その後土作りを行い、植栽後は花の水やり・草取り・歩道の清掃活動を潮見小学校区内の地域の皆さんと連携して取り組んでいます。現在会員は約20名で会員の高齢化も進んでおりますが、体が動く限りは佐世保の街をきれいにし、子ども達が笑顔になり、地域住民・観光客の心が豊かになるような活動を続けていきたいと思っています。



国道35号の植栽(潮見小)

道守たちのトピックス

親和銀ふるさと振興基金

「道守長崎会議」実行委に助成金



長崎新聞 令和元年8月29日(木)付朝刊

大庭取締役事務執行役員(右から二番目)から目録を受け取る牧実行委員長(左から二番目) 佐世保市島瀬町、親和銀行本店別館
親和銀行ふるさと振興基金は28日、道路の清掃や美化など道に関わる活動に取り組む任意団体、道守長崎会議の「みちづくし」佐世保2019実行委員会(牧圭子実行委員長、15人)に助成金30万を贈った。道守長崎会議は、2004年に発足。ボランティア団体の支援や地域活性の活動に取り組んでいる。
九州各県の道守会議は情報共有を目的に、毎年交流会を開いている。本年度は10月25、26日に「みちづくし」佐世保2019」として佐世保市で開かれる。実行委は懇親会、現地体験学習などを企画している。
贈呈式は島瀬町の同行本店別館であり、大庭真一取締役事務執行役員が牧実行委員長に目録などを手渡した。牧実行委員長は「佐世保の魅力を発信できるように、助成金を活用して成功させたい」と話した。(堀内優子)

道守通信編集後記

◎今回のみちづくしは、佐世保港開港130年を迎える佐世保市で10月25日・26日に開催され、テーマは、平成から令和へ道守Restartです。交流会では道守九州会議の生みの親である岡本博様に基調講演をいただき、各県からの課題や解決策を出し合っパブリックミーティングを盛り上げます。懇親会は、佐世保のグルメを堪能し、翌日は見所満載の見学会で佐世保のまちを満喫しましょう。令和の時代も道守活動がますます発展するよう願っています。

◎今回から「私の風景街道」「語り部さんのおすすめスポット」と題し、九州風景街道で活躍されている方に魅力や夢などを語っていただくページを設けました。マイスターや語り部さんたちを通じて魅力あふれる各地の風景街道が紹介されますので、どうぞご期待ください。

◎8月27日から28日にかけて佐賀・長崎を襲った記録的な豪雨で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。特に佐賀県武雄市と大町町周辺は時間雨量100mm以上の雨が2時間あまり降り続け、油流出事故も重なって、復旧に時間を要しているようです。長崎自動車道は法面災害により通行止めだった武雄JCTでは応急復旧完了により解除されたものの、今後の雨の状況では通行止めになる可能性があるとのことです。一日も早い復旧と通常の暮らしに戻りますように祈るばかりです。

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

(一社)九州地域づくり協会	九州国道協会	九州電力(株)
(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部	(一社)日本道路建設業協会 九州支部	福岡市道路利用者会議
(一社)福岡県建設業協会	福岡県道路協会	(株)大林組 九州支店
(一社)佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	鹿島建設(株) 九州支店
(一社)長崎県建設業協会	長崎県道路協会	建設サービス(株)
(一社)熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	清水建設(株) 九州支店
(一社)大分県建設業協会	大分県土木建築協会	大成建設(株) 九州支店
(一社)宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	長幸建設(株)
(一社)鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	西日本高速道路(株)九州支社
日新興業(株)	九州技術支援協議会	(株)九州建設マネジメントセンター
(株)熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州(株)	西日本高速道路メンテナンス九州(株)
阪神高速技術(株)	みちを考える会	朝日開発コンサルタンツ(株)
旭建設(株)	朝日工業(株)	朝日テクノ(株)
(株)アジア技術コンサルタンツ	(株)アップス	(株)安部日鋼工業 九州支店
(株)安藤・間 九州支店	鳥城塗装工業(株)	(株)エスイー 九州支店
NTTインフラネット(株) 福岡支店	NTTインフラネット(株) 熊本支店	NTTインフラネット(株) 鹿児島支店
扇精光コンサルタンツ(株)	大分瓦斯(株)	大分県建設業協会 大分支部
大分県道路舗装協会	大分交通(株)	(株)大島造船所 九州営業所
(株)荻島組	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	鹿児島土木設計(株)
(株)片平新日本技研	上内電気(株)	川田建設(株) 九州支店
(株)カンドー 九州支店	九建設計(株)	(株)九州開発エンジニアリング
九州建設コンサルタント(株)	九州地区道路利用者会議	九州みちの会
協同エンジニアリング(株)	(株)橋梁コンサルタント 西日本支社	(株)建設環境研究所 九州支社
(株)建設技術研究所 九州支社	(株)建設技術コンサルタンツ	(株)建設技術センター
(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部	(株)鴻池組 福岡支店	コーアツ工業(株)
(株)国土開発コンサルタント	(株)コバルト技建	(株)駒井ハルテック 九州営業所
(株)西海建設	西部ガス(株)	(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
(株)サタコンサルタンツ	三州技術コンサルタント(株)	株式会社ジャストエンジニアリング
昭和コンクリート工業(株) 九州支店	新成建設(株)	(株)新日本技術コンサルタント
(株)親和コンサルタント	(株)末宗組	(株)西部技建コンサルタント
(株)センコー企画	(株)総合技術コンサルタント 九州支店	そうじの会(多久の未来を創る会)
(有)測量企画センター	(株)そよかぜ館(「道の駅大和」)	大日本コンサルタント(株) 九州支社
大福コンサルタント(株)	太陽技術コンサルタント(株)	(株)高山組
瀧上工業(株)	宅島建設(株)	谷川建設工業(株)
(株)玉の湯	(株)地域科学研究所	中央コンサルタンツ(株) 福岡支店
中央復建コンサルタンツ(株)	(株)長大 福岡支社	(株)長大テック 福岡支店
通信土木コンサルタント(株) 九州支店	(株)東亜コンサルタント	東急建設(株) 九州支店
(株)東京建設コンサルタント 九州支社	(株)東豊開発コンサルタント	利光建設工業(株)
戸田建設(株) 九州支店	(株)友岡組	(株)友岡建設
(株)名村造船所 福岡営業所	南生建設(株)	(株)西九州道路
西日本技術開発(株) 土木管理部	西日本建技(株)	西日本コンサルタント(株)
西日本コントラクト(株)	(株)日建コンサルタント	日鉄鉱コンサルタント(株) 福岡支店
日本軌道工業(株)	(一財)日本造園修景協会 大分県支部	日本地研(株)
(株)野村建設	葉隠会道守部会	(株)萩原技研
パシフィックコンサルタンツ(株) 九州支社	(株)ピーエス三菱	(株)日高本店
福地建設(株)	(株)福山コンサルタント	(株)富士設計
(株)富士ピー・エス	(株)ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)	復建調査設計(株) 九州支社
前田建設工業(株) 九州支店	松尾建設(株)	松本技術コンサルタント(株)
(株)丸福建設	(株)水野建設コンサルタント	(有)道の駅みえ
宮崎空港ビル(株)	(株)宮崎産業開発	宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所
八千代エンジニアリング(株) 九州支店	(株)ヤマウ	(株)ヤマックス
龍南建設(株)	(株)ワンステップ	
個人会員72名		



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」秋号
平成31年9月発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp